

神戸大学附属図書館
平成22年度 資料展

「住田文庫」にみる 開国と文明開化

展示品目録



「横濱港佛蘭西商館之圖」 一川芳員 画

2010年10月22日(金)～12月21日(火)
社会科学系図書館 2階展示コーナー

はじめに

「住田文庫」は、海運研究者として知られた住田正一氏(1892-1968)が収集していた、慶長より明治初期に至る主として海事海運関係や地誌関係の和漢書約6,500点からなり、大正15年に同氏から本学の前身である神戸高等商業学校に寄贈されたものです。その収集範囲は、海事海運分野に関連して、商業や外国関係、歴史、地理、教育など、多岐に亘っています。

今回はその中から、幕末・明治初期の外国人の姿や習俗を描いた浮世絵版画や、西洋事情を伝えた書物など、当時の西洋文明の受容の様子をものがたる資料を、4つのサブテーマにまとめて紹介いたします。



「横浜渡来亜墨利加商人旅行之圖」(パネル)



「佛蘭西把里須府：萬国名勝競之内」

1. 横浜浮世絵の中の外国人

No.	展示資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
1-1	「生寫異國人物魯西亞人飼羅紗羊之圖」 五雲亭貞秀 画	錦絵	[1860(万延元)年11月]	貞秀は誰よりも早く横浜浮世絵を制作し始め、万延元年2月以降次々と発行したが、初めて一枚物の外国人を描いたのは、「生写異国人物」と題する5枚組で、展示品はその一枚である。	8-33
1-2	「横浜港佛蘭西商館之圖」 一川芳員 画	錦絵	1866(慶応2)年3月	フランスの商館が描かれた珍しい作品。西欧人が好んだヴェランダと日本的な屋根を持つ和洋折衷の外観で、日本人人工が建てた木造建築である。	8-6
1-3	「横浜明細全圖」 一川芳員 画	地図	1864(元治元)年原板 1868(慶応4)年再板	芳員による地図。慶応2年の大火後に拡張され「象の鼻」と呼ばれるようになった二本の突堤や、神奈川砲台の台場、外国人居留地の様子などがわかる。	5C-157

パネル資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
「横浜風景一覽」 (二代)広重 画	錦絵	[1861(文久元)年2月]	二代広重が先代より受け継いだ風景画技法で、大錦6枚に描いた大作の左3枚。寒村であった横浜が、開港地として急速に整備されていく姿も浮世絵の格好の題材となった。	8-4
「外国子供寵愛之図」 一川芳員 画	錦絵	[1860(万延元)年10月]	万延元年10-11月になって、多くの絵師が外国人を主題にした浮世絵を発表し始め、これ以後急激に増えていった。	8-17
「外國人物圖畫魯西亞」 芳虎 画	錦絵	[1860(万延元)年12月]	開港の相手国である5カ国の人物画が、シリーズで出版されることが多かった。しかし、国ごとの特徴はほとんど見られない。	8-14
「横浜渡来亜墨利加商人旅行之圖」 五雲亭貞秀 画	錦絵	[1861(万延2)年1月]	居留外国人は、開港場の十里四方(横浜では、東は六郷川(現在の神奈川県と東京都の県境)まで)内に行動が制限されていた。	8-13
「亜墨利加南京」 一恵斎芳幾 画	錦絵	[1861(万延2)年1月]	横浜浮世絵には西洋人と中国人の組み合わせが見られる。貿易商は、香港・上海から通訳や料理人として中国人を雇っていた。	8-25
「佛蘭西人之肖像」 芳員 画	錦絵	[1861(文久元)年2月]	西洋の化粧をする女性の前には、当時の人々が「ギヤマン」と称して憧れた、ガラスの小瓶が並んでいる。	8-32
『横浜開港見聞誌』 橋本玉蘭齋 編；五雲亭貞秀 畫	版本	1862(文久2)年序	浮世絵師貞秀の手による横浜の案内書。実際に見聞きしたと思われる外国人の珍しい風俗が、詳細に描かれている。	2B-22

2. 啓蒙と戯作

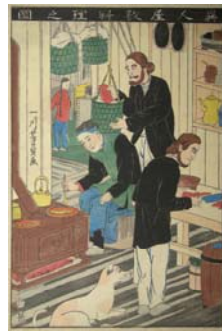
No.	展示資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
2-1	「佛蘭西國」 一川芳員 画；假名垣魯文 記	錦絵	[1861(文久元)年10月]	購入者の興味をひくために、仮名垣魯文による説明文が付けられていて、百年戦争、王政から共和政、ナポレオンの台頭と凋落、王政復古までが記されている。	8-16
2-2	「佛蘭西把里須府：萬国名勝競之内」 芳虎 画；假名垣魯文 訳誌	錦絵	[1862(文久2)年6月]	3枚一続きの右側の1枚のみ所蔵。付された魯文による説明文では、何故か「パリが海の近く」となっていて、地中海の港風の景色が描かれている。	8-3

No.	展示資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
2-3	『西洋聞見録』 邨田文夫 著	版本	1869(明治2)年-1870年	英国留学経験のある村田(邨田)文夫が著した西洋事情書。著者の見聞に基づき広範かつ明確に記した点においては、福澤諭吉の『西洋事情』と双璧とされる。	2B-16
2-4	『世界國盡』 福澤諭吉 訳述	版本	1869(明治2)年	世界地理の書。テキストは上下2段組になっていて、習字手本風の書体の下段が本文で、上段が頭書(補足説明)。本文は読誦しやすい七五調になっている。	5A-118
2-5	『西洋道中膝栗毛：萬國航海』 假名垣魯文 著	版本	1870(明治3)年序	魯文が元々得意とする膝栗毛物と異国風俗物を組み合わせたもので、開化期の風潮と合致して大ヒットとなった。福澤諭吉の『西洋旅案内』の戯作版と称される。	5A-117

パネル資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
『西洋事情』 福澤諭吉 纂輯	版本	1869(明治2)-1872年 (再版)	福澤諭吉が文久遣欧使節に従って渡欧した際の調査見聞をもとに著した、まさに西洋事情の書。外編1に「世ノ文明開化」とあり、これが「文明開化」という語の最初の用例とされる。	3-42
『西洋旅案内』 福澤諭吉 著	版本	1867(慶応3)年	実用を重んじたガイドブックで、おそらく日本初の西洋旅行の案内記。洋式便座の使用法の注意など、経験者でなければ書けないような内容も多い。	3-44 3-130
『萬國人物圖會』 假名垣魯文 訳；一孟齋芳虎 画	版本	1861(文久元)年	諸々の海外事情書を抄訳・翻案したもの。欧米事情を戯作に取り込んだ最初期のものとされる。偉人伝中心の歴史読み物だが、史実と異なる部分も多い。	5A-366
『童繪解萬國噺』 假名垣魯文 訳；一孟齋芳虎 画	版本	1861(文久元)年	前半は西洋の歴史・地理に関する読み物、後半はアメリカ史を戯作化した伝奇物語となっている。前半の一部に相当する1冊のみ所蔵。	7B-49
『倭國字西洋文庫』 假名垣魯文 作；芳虎 画	版本	1872(明治5)年	「那勃列翁[ナポレオン]一代記」と傍題が付されているが、ストーリーは史実とは大違いの荒唐無稽な近世戯作調伝奇物語。	2B-79
『西洋新書』 瓜生政和 編	版本	1872(明治5)年	戯作者梅亭金鷲が本名で刊行した西洋事情の啓蒙書。学制が公布されると、教育課程を定めた「小学教則」において、教科書に指定されている。	5A-277 5A-278



『倭國字西洋文庫』(パネル)より



「異人屋敷料理之圖」



『東京開化繁昌誌』より

3. 西洋料理の広まり

No.	展示資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
3-1	『華英通語』 福澤諭吉 著	版本	1860(万延元)年	福澤諭吉がアメリカで購入した英中辞典を元に、発音をカタカナで記入した英中和辞書で、福澤による最初の刊行物である。	6A-159
3-2	「異人屋敷料理之圖」 一川芳員 画	錦絵	[1860(万延元)年10月]	異国の文化に興味を持ち、多くの横浜絵を描いた芳員による、厨房での料理風景。西洋人が肉を切り、清国人がコンロで煮炊きしている。	8-26
3-3	『東京開化繁昌誌』 萩原乙彦 著	版本	1874(明治7)年	明治初期に続出した東京繁昌記の類本の一つ。「牛店繁昌」の項に、当時大流行した牛鍋屋の盛況ぶりが記されている。	5A-361
3-4	『西洋料理法獨案内』 近藤堅三 編	版本	1886(明治19)年	西洋料理で使う食器や調理器具の説明では、日本語と英語による表記がされている。肉類の見立てと切り方、食材の説明、パーティや会食での席次など、内容は多岐に亘っている。	6B-60
3-5	『日本支那西洋料理獨案内』 吉田正太郎 編	版本	1887(明治20)年	日本・支那・西洋の3部から構成され、西洋編では食事法、献立、肉と魚料理法が紹介されている。食事法では食器の名称からテーブル席での席次など細かく説明が付けられている。	6B-33

パネル資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
『西洋料理通』 假名垣魯文 編	版本	1872(明治5)年	仮名垣魯文による日本初の西洋料理の料理本。西洋料理110種類の「製方」を紹介しており、調理法がわかりやすいと当時の料理人に引っ張りだこであったらしい。	6B-62
「外国人酒宴之圖」 芳員 画	錦絵	[1860(万延元)年10月]	西洋人の酒宴風景を描いた芳員の作品。日本料理とは全く異なる西洋料理の食器やテーブルマナーに、明治期の日本人はかなり苦戦していたようだ。	8-31
「萬國新聞紙」 ペーリー(英國) 編	新聞	1867(慶応3)年6月	実業家の中川嘉兵衛が江戸高輪に開店した牛肉店の広告。牛肉が健康増進や滋養強壮に良いことを説き、牛肉の部位と用途の関係を図解している。	9A-52
『當世料理法』	版本	1891(明治24)年	西洋料理・朝鮮料理・中国料理・日本料理の代表的な料理のレシピを詳しく紹介。模倣や折衷から自分たちの口に合う新たな料理を模索している様子がうかがえる。	6B-35
『洋食獨案内』 リュシー・スチープス(米國) 口傳 ；篠野乙次郎 編著	版本	1886(明治19)年	当時の日本人の関心は食事のマナーや会食での席次、パーティーでの立ち居振る舞い等にまで及び、西洋料理のレシピと共に挿画入りで紹介されている。	6B-61



『改暦辨』より



「汐留より蒸氣車通行の圖」(パネル)

4. 科学技術への関心と受容

No.	展示資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
4-1	『改暦辨』 福澤諭吉 著	版本	1873(明治6)年 1月	福澤諭吉による改暦の啓蒙書。改暦直後に6時間程で書かれた。時宜を得た出版、小冊子、分かりやすい内容といった理由からよく売れ、県で大量購入されることもあった。	7B-6 7B-83
4-2	『理學初歩』 Mary A.Swift 著	版本	1867(慶応3)年	マリー・スウィフト(Mary Swift)の『First lessons on natural philosophy for children』の翻刻本。当時の英語学習に使われた。	6B-31 6B-32
4-3	『理学初歩：挿譯』 中村順一郎 訳	版本	[1870(明治3)年]	英語の理解・学習のために工夫がなされており、英語のカタカナ読み、英単語の日本語意味だけでなく、日本語文に直した際の読みの順番も記入されている。	6B-55
4-4	『窮理圖解：訓蒙』 福澤諭吉 著	版本	1871(明治4)年再版	小学校の教科書として使われた。序文に、「物の理に暗ければ身の養生も出来ず、親の病気に介抱の道も分からず」と書かれ、窮理を学ばなければ一身独立はできないと説いている。	6B-11
4-5	『窮理隱語：儿女必解』 清原道彦 著；猩々晝斎 画	版本	1872(明治5)年	窮理学ブームによって出版された本の一つ。作者の清原道彦は、『窮理智環』など、様々な科学本を著している。挿絵は河鍋晝斎による。	6B-9
4-6	『窮理外傳：分明開化』 平賀源内 遺稿；假名垣魯文 閱	版本	[1872(明治5)年]	『一子相伝/極秘巻』(明和7年刊)という滑稽本を、仮名垣魯文が窮理学ブームに便乗し改題改修したもので、「窮理」「平賀源内遺稿」などの記述は魯文の捏造という怪書。	7B-19

パネル資料名	種類	発行年	コメント	請求記号
「汐留より蒸氣車通行の圖」 昇齋一景 画	錦絵	[1872(明治5)年9月]	汐留の地には新橋駅が建設され、明治5年に日本初の鉄道が横浜との間に開設された。石造りの洋館や駅舎も描かれている。	8-9
「東京高輪海岸蒸氣車鐵道走行之全圖」 芳虎 画	錦絵	[1871(明治4)年2月]	高輪は現在の東京都港区、明治5年に品川との間に鉄道が開通した。元々、高輪海岸の海岸線の脇には東海道が通っていて、現在も新幹線が走行している。	8-7

編集・発行：神戸大学附属図書館 2010(平成22)年 10月 20日発行

問い合わせ先：情報サービス課 情報リテラシー係

Tel: 078-803-5313 Fax: 078-803-7355 URL: <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/>